

経済指標ウォッチャー

日本GDP成長率(2022年10-12月期) プラス成長も予想下回る

インバウンド消費増加や在庫積み増しなどが設備投資の減少を補うか

GDP（国内総生産）とは？

Gross Domestic Productの略で、国内において一定期間内に新たに生産されたモノやサービスなどの合計金額。その国の経済力の目安に用いられる。

前年同期や前期と比べ、どのくらい増加（減少）したのかを見ることで、国内の経済成長を推定することが可能となる。GDPの増減率を%で表したものを『GDP成長率』と呼ぶ。

10-12月期GDP成長率は前期比年率0.6%増

内閣府が14日に発表した、2022年10-12月期の実質GDP（国内総生産）成長率（季節調整済み、1次速報値）は、前期比年率0.6%増となりました。2四半期ぶりのマイナス成長となった7-9月期の同1.0%減からは改善したものの、事前予想の同2.0%増を下回る結果となりました（図表1）。

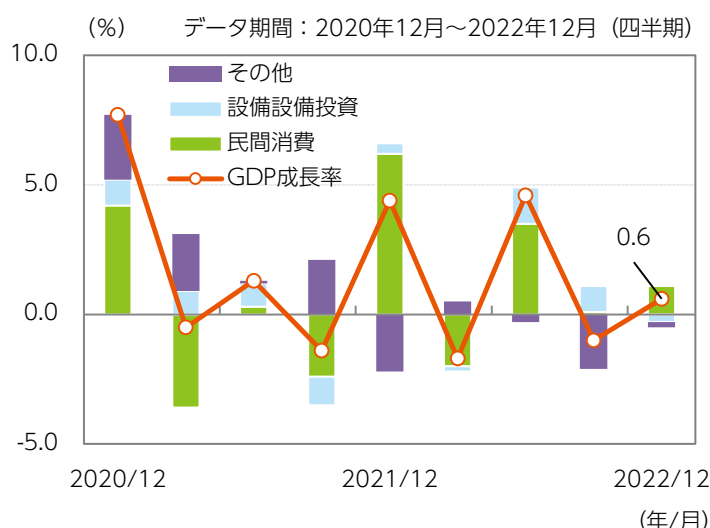
項目別寄与度では、2022年10月に入国者数の上限が撤廃されるなど、水際対策の緩和が進んだことから外国人観光客による消費、いわゆるインバウンド消費が増加しました。インバウンド消費はGDP算出の際に「輸出」に分類されることから、純輸出（輸出-輸入）が1.4%のプラス寄与となりました。さらに、全国旅行支援などの効果もあり、民間消費（個人消費）が1.1%のプラス寄与となりました。一方、世界的な金利上昇などを背景に、景気減速懸念が強まっていることなどから、設備投資への慎重姿勢が強まり、民間設備投資が0.3%のマイナス寄与となりました。

引き続きインバウンド消費増などに期待

2022年10-12月期の実質GDP（金額）は年率換算で547.5兆円と、新型コロナウイルス感染拡大前の2020年1-3月期の544.5兆円をわずかに上回りました。一方、欧米に比べると日本のGDPの改善速度は遅く（図表2）、コロナ禍からの立ち直りに時間を要していることがうかがえます。

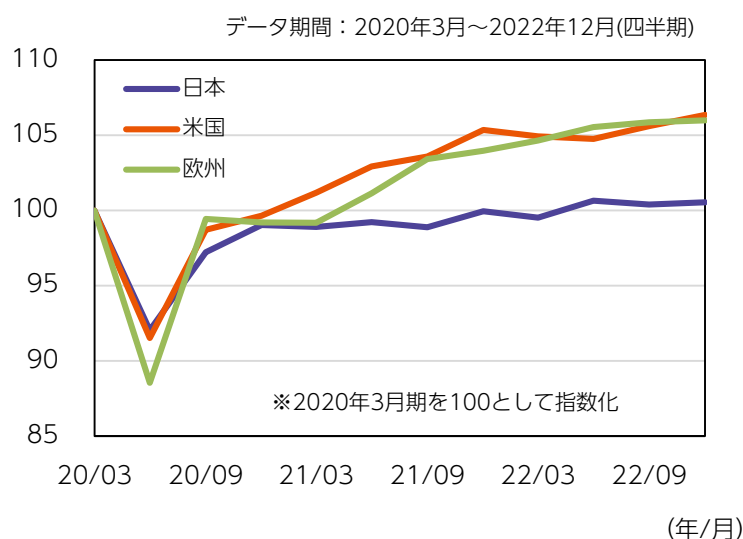
今後、世界的な景気減速懸念を受けて、輸出産業を中心に設備投資が伸び悩むことも考えられます。一方、外国人観光客数が増加基調となっておりインバウンド消費増加が期待されること、政府が全国旅行支援等の個人消費喚起策を実施していること、さらに10-12月期に在庫が大幅に減少したことなどにより在庫の積み増しが期待されることから、景気減速懸念による設備投資の落ち込みを、どの程度補っていけるかが注目されます。

図表1：実質GDP成長率の推移



※実質GDP成長率（前期比年率）と項目別寄与度の推移

図表2：日米欧の実質GDPの推移



出所) 図表1、2は内閣府、ブルームバーグのデータをもとに
ニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>